【勝山高等学校蒜山校地グランドデザイン（スクール・ポリシー）】

《蒜山校地に期待される社会的役割》【スクール・ミッション】	一人一人の個性を重視した教育を行う連携型中高一貫校として、多様な進路希望者に対応するとともに、地域等との連携や地域の豊かな自然の活用により、主体性や協調性等を高める教育活動を通して、社会的・職業的に自立し、社会の発展に貢献する人材の育成を目指す。

《求める生徒像》【アドミッション・ポリシー】	○ 住んでいる地域を愛し、将来にわたりその地域に貢献したいという気持ちを持つ生徒 ○ 基本的生活習慣を身につけ、基礎学力を伸ばしたいという意志を持つ生徒 ○ 地域での活動を通して、社会に関わりたいという気持ちを持つ生徒

生徒の実態	内外の環境分析
・穏やかな性格の生徒が多く、全般的に落ち着いた学校生活を送っている。 ・時と場が与えられれば、しっかりとした自己主張や親和性を発揮することができる。 ・アルバイト等を通じて、基本的な社会性を身に付けている生徒が多い。 ・義務教育段階までで、様々な理由から、潜在的能力が充分に発揮できていない生徒が存在する。 ・人間関係形成能力に苦手意識を持ち、閉鎖的な小集団を構築しやすい面もある。	・小規模校で教員も少なく、一人一人の業務も多い。 ・地元の蒜山中学校の生徒数減により志願者が減っている。 ・岡山県、真庭市から存続を期待されている。 ・真庭SDGsパートナーとして持続発展可能な社会の実現のために活動している。 ・地域や同窓会から蒜山地域になくてはならない学校と期待されている。

《　資質・能力の３つの柱＝生きる力　》
学びに向かう力・人間性　／知識・技能／思考力・判断力・表現力

学校教育目標 《育てたい生徒像》 【グラデュエーション・ポリシー】	持続可能な社会の主体的構成者として、自ら学び、考え、行動することができる人物。
令和4年度重点目標	○学校行事・「総合的な探究の時間」・学校設定教科「CP」、「蒜山」などにおいて、生徒の主体的な活動を充実させ、持続発展可能な社会を実現できる資質・能力を持った生徒の育成を図る。 ○小規模校の特性及び整備が進んだICT環境を活かし、個に応じた指導と多様な評価を充実させ、幅広い視野を持った生徒の育成を図る。 ○論理的な思考能力やコミュニケーション能力を伸長させ、特別活動や地域での活動、国際交流などの面で、多様な他者と充実した協働体制が構築できる生徒の育成を図る。 ○蒜山地域を基盤に真庭地域での多様な志望に対応することで、地域を支え地域になくてはならない学校として厚い信頼のもと、本校地の魅力づくりを進めるとともに、教育活動を積極的に発信し、志願者の増加に努める。

目標実現に向けた取組の方針
【カリキュラム・ポリシー】

P　何ができるようになるか〔学校教育の基本〕

○学習が習慣化され、基礎学力が定着している。
○知識を活用して課題を発見し、他者と協働して解決策を発信することができる。
○「身についた力」を、他者に説明することを意識して言語化できる。
○他者と積極的に関わり、多様な価値を認めることができる。
○生涯に渡り、また持続可能な社会の一員として学び続ける意欲を持っている。

D　何を学ぶか〔教育課程の編成〕

○「学びに向かう力」「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力」の三つの柱を意識した年間指導計画を構築する。
・「総合的な探究の時間」及び学校設定教科「CP」「蒜山」を、教科横断的な学びを結実させるものとして位置づける。
・生徒の学びの道筋と育成したい資質・能力を明確化するために、年間指導計画を共有して教科・科目間の関連を明らかにする。

A

D　どのように学ぶか〔教育課程の実施〕

○生徒の思考力・判断力・表現力を育むための活動を授業に取り入れる。
・ICT機器の活用を含めた、目標を意識した手立てを工夫する。
・考えをまとめたり、表現したりする活動を充実させる。
・授業の中で、既習の知識・技能を転移させ、活用できる場面を設定する。

C　何が身についたか〔学習評価を通じた学習指導の改善〕

○一人一人の個性・能力を伸長し、指導を改善するために、多様な評価を実施する。
・生徒一人一人が安心してアウトプットできる空間を充実させる。
・学びの振り返りシート等によって、自己評価を言語化させる。
・妥当性/信頼性に基づく、生徒相互による評価を取り入れる。
・「学びの基礎診断」等を用いて生徒の客観的な学力把握に努める。
・ポートフォリオやキャリアパスポートを活用して生徒自身の振り返りの場面を設定する。

取組を支える　　取組を支える

実施するために何が必要か〔指導体制の充実、必要な支援、家庭・地域との連携・協力〕	生徒にどのように支援するか〔どのような配慮が必要か〕
○教職員のさらなる連携協力の推進 ○地域・同窓会や保護者との連携・協力 ○蒜山中学校との連携、大学や卒業生等との連携協力 ○HP、Facebook、ひるこうタイムズ、新聞やTV番組等での情報発信	○時機を捉えた、複数の視点によるきめ細やかな生徒面談 ○SC・SSWを含む充実した相談体制 ○日々の連絡、運営委員会や職員会議での情報共有 ○ケース会議の随時招集